

頁	ご意見の内容	旧	新
32	<p>(1)具体的な内容について この記載内容では、姉妹都市や各国との国際交流や民間団体との連携を通じて得られる知識や情報が、男女共同参画に具体的にどう結びつくのかわかりませんが、どのような知識や情報なのかを具体的に記載するなど。</p>	<p>基本目標Ⅰ あらゆる分野における女性の参画拡大  (2)地域における男女共同参画の推進  4 国際的視野を広げ、国際交流を推進  取り組み項目 (1)国際交流や国際理解促進の取り組み  具体的な内容 <u>姉妹都市や各国との国際交流や民間団体等との連携を通じて、その国の文化や生活習慣などの情報を得ることで、国際的な協調を踏まえた男女共同参画の推進に活かせるよう取り組みます。</u></p>	<p>基本目標Ⅰ あらゆる分野における女性の参画拡大  (2)地域における男女共同参画の推進  4 国際的視野を広げ、国際交流を推進  取り組み項目 (1)国際交流や国際理解促進の取り組み  具体的な内容 <u>海外姉妹都市等との交流により、その国の文化や生活習慣などの情報を得て多様性に触れることで、異文化への理解と共生への意識が向上し、男女共同参画推進の取り組みへも貢献します。</u></p> <p style="text-align: right;">【文化国際課】</p>
33	<p>「女性に限定してみると、「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」が最も高く～」と記載されていますが、それは明確な誤りです。「妊娠を機に退職した(15.9%)」「出産を機に退職した(15.9%)」「転職した(4.7%)」「妊娠時、働いていなかった(21.9%)」といったネガティブ要因の合計が約54%で、これが最も高い。また、男性とは顕著に異なる傾向です。また、「前回調査と比較すると17.7ポイント増加」と記載されていますが、その要因は無回答・不明の減少によるもの。上記のネガティブな要因の回答も増加しています。書きぶりを修正すべきです。</p>	<p>(3)女性のライフステージに応じたキャリア形成の支援  《アンケート結果より》 妊娠・出産を理由とした就労形態の変化について、男女別でみると、男性は、「育児休業なしで、仕事の形態を変えずに続けて働いた」の割合がほとんどの年代で高くなっていますが、育児休業を取得している人も一定数います。一方で、女性に限定してみると「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」が、<u>29.2%と最も高く、前回調査と比較すると17.7ポイント増加しています。</u></p>	<p>(3)女性のライフステージに応じたキャリア形成の支援  《アンケート結果より》 妊娠・出産を理由とした就労形態の変化について、男女別でみると、男性は、「育児休業なしで、仕事の形態を変えずに続けて働いた」の割合がほとんどの年代で高くなっていますが、育児休業を取得している人も一定数います。一方で、女性に限定してみると「育児休業を取得し、仕事の形態を変えずに続けて働いた」が、<u>29.2%と最も高くなっています。また、「不明・無回答」を除いて前回調査と比較した場合でも11.4ポイント増加しています。</u></p> <p style="text-align: right;">【人権男女共同参画課】</p>
45	<p>(3)性的マイノリティに対する理解の促進について 「性的マイノリティに対する理解」が唐突に出てきた感があるので、男女共同参画との関係性の説明をどこかに記載すべきだと思います。 例えば、自分らしさの表現(あるいは自己肯定感)への「男らしさ」、「女らしさ」のバイアスという観点から関係性を説明できるのではないのでしょうか。</p>	<p>基本目標Ⅱ 誰もが能力を発揮し、多様な働き方ができる環境づくり  (7)意識改革に向けた啓発・普及の推進  課題 男女が平等になっていると感じる人の割合が減少している一方、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった夫婦間の性別役割分担意識は解消傾向にあります。ジェンダー平等感を高め、ジェンダー・バイアスをさらに解消させるため、男女共同参画に関する意識改革や理解促進が重要です。  20 男女共同参画の視点に立った意識啓発  取り組み項目 (3)性的マイノリティに対する理解の促進  具体的な内容 ・性的マイノリティに対する理解を深めるため、広報等による啓発に努めます。</p>	<p>基本目標Ⅱ 誰もが能力を発揮し、多様な働き方ができる環境づくり  (7)意識改革に向けた啓発・普及の推進  課題 男女が平等になっていると感じる人の割合が減少している一方、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった夫婦間の性別役割分担意識は解消傾向にあります。ジェンダー平等感を高め、ジェンダー・バイアスをさらに解消させるため、<u>性の多様性も含め、誰もが共に参画する社会をつくり上げていくための意識改革や理解促進が重要です。</u>  20 男女共同参画の視点に立った意識啓発  取り組み項目 (3)性の多様性に対する理解の促進  具体的な内容 ・性的多様性に対する理解を深めるため、広報等による啓発に努めます。</p> <p style="text-align: right;">【人権男女共同参画課】</p>

頁	ご意見の内容	旧	新
48	<p>男女互いに異性についての正しい理解を深め、の文言は、男女二分化の考えを進めるものであり、マイノリティ、多様性の視点に欠ける。違いを尊重する対等な関係の意識向上を図るべき。</p>	<p>基本目標Ⅲ 安全・安心な暮らしの実現</p> <p>(8)女性等に対するあらゆる暴力の根絶</p> <p>23 学校における教育</p> <p>取り組み項目 (1)道徳教育の充実</p> <p>具体的な内容 <u>小中学校の生活の中で、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いたり、男女互いに異性についての正しい理解を深め、互いの人格を尊重する道徳教育を充実させ、意識の醸成に努めます。</u></p>	<p>基本目標Ⅲ 安全・安心な暮らしの実現</p> <p>(8)女性等に対するあらゆる暴力の根絶</p> <p>23 学校における教育</p> <p>取り組み項目</p> <p>具体的な内容 <u>小・中学校の生活において、学び合う中で友情を育み、人間関係を築き、異性についての理解を深めることをとおして、互いの人格を尊重する道徳教育を充実させ、意識の醸成に努めます。</u></p> <p style="text-align: right;">【学校教育課】</p>
54	<p>過去の災害時には、性別や年齢に関わらず性犯罪や総暴力、DVの被害に遭っています。</p> <p>世界的にも、また日本国内でも警察への被害届が出されていなかったとしても、実際に犯罪が起きていたと思われる証言が多数あります。</p> <p>記載されているアンケート結果には、「避難所設備の充実」も明記されていますが、なぜ必要なのか、という根本的な理由と共に、具体的な対策を施すことで、犯罪を起こさせない体制づくりや男女共同参画の視点が必要な理由をより深め、市民に対しては警鐘ともなるように思います。</p> <p>被害者は災害後もトラウマを抱え、復興後にも社会生活を送る中で苦しむこととなり、何重もの苦難とともに生きることになります。</p> <p>表面的なアンケート結果からの検証に留まらず、必要性和対策を多様な視点で記載して欲しいです。</p> <p>防災や減災に対しての有識者はたくさん存在していますので、参考にして欲しいです。</p>	<p>(11)防災等における男女共同参画の推進</p> <p>課題 性別・年齢の区別なく、誰もが被害を受ける災害発生時には、男女共同参画の視点に立った対応が必要です。本市では、消防において、女性活躍推進検討チームの結成や、令和2(2020)年に女性だけの消防分団ができるなど、女性活躍の機会を通じて地域防災力の向上を図ってきました。今後も女性の意見を取り入れながら、防災・復旧・復興対策を進めるとともに、男女双方の意見を取り入れた安全・安心なまちづくりを推進することが必要です。</p>	<p>(11)防災等における男女共同参画の推進</p> <p>課題 性別・年齢の区別なく、誰もが被害を受ける災害発生時には、男女共同参画の視点に立った対応が必要です。本市では、消防において、女性活躍推進検討チームの結成や、令和2(2020)年に女性だけの消防分団ができるなど、女性活躍の機会を通じて地域防災力の向上を図ってきました。今後も女性の意見を取り入れながら、防災・復旧・復興対策を進めるとともに、男女双方の意見を取り入れた安全・安心なまちづくりを推進することが必要です。</p> <p><u>さらに近年、各地において様々な災害が発生しており、震災後の実態調査では、被災地の避難所などにおいてDVや性暴力などの被害の報告もあつていきますので、本市において、このような事態を起こさないためにも、なお一層、男女共同参画の視点が必要になってきます。</u></p> <p style="text-align: right;">【防災危機管理局・人権男女共同参画課】</p>